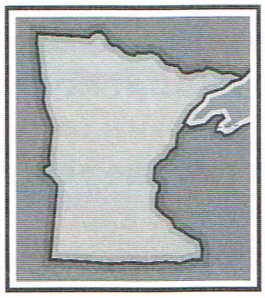


ミネソタ通信
第８号
2008 年 5 月発行

目次

（会長報告） **1**

ご報告　沼形　義彰 *1*

Message from Dr. Kay Thomas *3*

Message of Dr. Josef A. Mestenhauser *3*

（特別寄稿） **4**

追悼：伊藤定祐さん *4*

（ミネソタ便り） **5**

ミネソタ便り *5*

（ミネソタの思い出） **6**

ミネソタ大学院での留学生活について *6*

（トピックス） **8**

ミネソタ・スポーツ事情 *8*

ミネソタと日本の姉妹都市関係について *10*

（編集後記） **12**

（会長報告）

ご報告　　沼形　義彰

２００５年６月２５日に東海大学交友会館で行われた、日本ミネソタ会総会・懇親会において、佐野会長の後任に選出戴きながら、知人の婚礼と重なり、失礼いたしました。

その後の活動をご報告いたします。

２００６年に入ると、UMN の International Student and Scholar Services の Dr. Kay Thomas から、３月中旬に来日するので、関係者に会いたい旨の連絡がありました。

２００６年３月２１日(祝)の午後５時から東海大学交友会館を予約し、会員にメールで案内を送りました。

当日は、Dr. Kay Thomas に加えて、慶応義塾に派遣されている Dr.Jeffry Kahn, Dr. Gregory A.Plotonikoff を来賓に迎えて、９名の会員が集まり、楽しい会合となりました。(写真右)

２００７年に入り、総会・懇親会の準備のために、第一回会合を、３月１８日（日）１１時から、小生の自宅で開きました。

総会・懇親会は６月３０日（土）の１２時―１５時と決め、東海大学交友会館を予約しました。

５月初旬に案内状を発送し、平行して「日本ミネソタ会規約」の見直しに着手しました。

６月２日（土）昼に第二回準備会合を小生の事務所で開き、総会に規約改正案を図ること、当日の議事進行などを打ち合わせしました。

総会に先立ち、小生共夫婦は、６月１１日に UMN の Kay Thomas の事務所を訪問し、
International Student and Scholar Services の内容の説明を受けました。
その後、Faculty Club の Restaurant に移動して、

Dr. Mestenhauser
Meredith McQuaid　Interim Associate Vice President and Dean
　　Office of International Programs
Beth Isensee　　Recruitment Coordinator
　　International Student and Scholar Services
Dr. Kay Thomas

と小生共二人の６名でランチをご馳走になりました。

食後は皆様と別れ、キャンパスを散策し、当時住んだアパート、タウンハウス、Mall of America などを訪ね、次の訪問地である Toronto Canada に向かいました。

２００７年の「日本ミネソタ会」は、予定どうりに、６月３０日（土）に開催されました。

当日は、１２時から総会が始まり、会務、会計などの報告と、規約改正、役員改選が承認されました。

懇親会では、NWA の代表からのミネソタの紹介や、皆様のスピーチに引き続き、ミネソタクイズと Minnesota Rouser の合唱が岩波さんの名司会でおこなわれ、大いに盛り上がりました。

中締めは、１月に惜しくも亡くなられた伊藤さんにより行われ、再会を約して、１５時に散会しました。

（2007 年 6 月の総会に寄せられたメッセージをご紹介します。）

Message from Dr. Kay Thomas

I am delighted that your meeting together. I am happy to have this ability to be connected electronically.

I am hoping to be in Japan in the near future, but not specific plan as yet. But hope to be back soon. I just want to say any of you who have sons and daughters who are looking for further in their education, think about U of M. I think our service and our international students are improving all the time.

We love to see some children of alumni from Japan. Back here, in Minnesota. So hello, cheer up.

意訳

本日電子の力で、私もミネソタ会総会に加わることが出来るなんて、すばらしいことです。
今のところ私の日本訪問の予定はないのですが、出来るだけ早く再訪したいものです。
そして、皆様に大事なお願いがあります。同窓会の皆様の息子さん、お嬢さんたちの中で、さらなる教育の機会をと考えている方がいらっしゃいましたら、ぜひミネソタ大学への留学を考慮に入れてください。私たちのサービスも我ら留学生たちも常に向上しております。
是非ミネソタへいらしてください。待っております。お互いに頑張りましょう！

Message of Dr. Josef A. Mestenhauser

I would like to greet all of my Japanese friends and the association in Japan.

They probably know Japan is my most favorite country, and I had been going there ever since 1960 and 1961. So I am always enjoying being there have been many friends, and admire people and culture. So at this particular time, I would like to send my greetings to everybody and best wishes on their business of the association.

I wish I will be able to visit Japan again sometimes to both make new acquaintanceship and to reestablish all my friendships. I had fantastic memories on Japan that was indeed a life changing experience for me and will never forget those experiences.

意訳

私の日本の友人の皆様と、ミネソタ会にご挨拶申し上げます。
ご存知のように、日本は私の最も好きな国であり、1960 年、61 年の初訪問以来、多くの友人と出会い、日本の文化と人々を高く評価してまいりました。この機会に、私はミネソタ会の皆様全員にご挨拶するとともに、ミネソタ会のご発展を祈念いたします。
私は、日本を再訪して旧交を温めたいと願っております。そして新しい出会いも期待しております。私にとって、日本の思い出は、人生観を変えるほどのすばらしい体験であり、一生忘れえぬ経験です。

（特別寄稿）

追悼：伊藤定祐さん

＜当会の副会長として長年にわたり会の活動に多大の貢献をいただきました伊藤定祐さんが去る２００８年１月に亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。故人と親交の深かった**遠山紘司さんに**追悼の文をお寄せいただきました。＞

伊藤　定祐　様

ここ数日、大学構内の桜がきれいに咲き誇っていますが、この冬は例年になく寒さが厳しかったせいか丹沢にまだ雪を見ることができます。

例年この年度替わりの季節は時間的にも、気持にも余裕ができる頃です。昨年までは昼食時に伊藤さんとぱったり会うと、どちらからともなく「桜見に行きますか」と声をかけ散歩したものですが、今年は一人でした。

伊藤さんに手紙を書くのは久しぶりです。確かミネソタから帰国してすぐ東京商船大学から次の大学、幾徳工業大学に行くか、どうしようかと思案されていたころ数度書いた覚えがあります。何年ぶりでしょうか筆をとりました。

伊藤さんとは勤務先の建物が隣であったせいか、週に 2、3 度は顔を合わせたものです。しかし、昨年 10 月ころからは会う機会がほとんどなくなりました。最後にお会いしたのが 11 月末ごろでした。あの元気な伊藤さんが元気をなくしておられました。

伊藤さんに初めてお会いしたのはミネソタ大学の日本人会だったと覚えています。昭和 51 年のクリスマスの頃でした。伊藤さんご夫妻はどなたにも親切でしたが、渡米後間もない私たち家族にも同じように対応していただきました。ミネソタ大学の宿舎に住んでいましたが伊藤さんはミネアポリス、私はセントポールの宿舎でした。ちょうど中間に陸上競技場がありましたね。朝 6 時、子供が寝ているときに抜け出して伊藤さん御夫妻、私共夫婦 4 人であの陸上競技場をよく走ったものです。

帰国後も当時、ミネソタで一緒だった 6 家族が毎年持ち回りでポットラックパーティーを楽しんでいましたがスタートは伊藤さん宅でしたし、その中心は伊藤さん、あなた方御夫妻でした。人を包み込む雰囲気、けっして物事を押し付けようとされない伊藤さんの周りには絶えず多くの人が集まっておられました。いろいろな人や学会から伊藤さんならやってくれる、どうにかしてくれる、といった信頼を得ておられましたが、結果的にはこれが災いしたのでしょうか。

何かの縁で私も 7 年前から伊藤さんの勤めておられる神奈川工科大学にお世話になっています。どこに勤めても人間性は変わりません。伊藤さんの学内の評判はこれまで私たちが外で感じていたものと同じでした。また、研究に対する情熱は年毎に増しておられたように感じました。

昨年 8 月初め神奈川県産業技術研究所に一緒に出かけた折「あれもこれもで体が・・・」と悩まれていたのを思い出します。大学の仕事も、学会の仕事も手抜きをすることができず無理をされていると聞いておりました。聡明な奥様、真理子さんの「休んだら、病院に行ったら」の言葉を実行しなかった科学者伊藤定祐先生が残念です。

12 月電話でお身体の様子をお聞きした折、最後に「真理子が本当によくしてくれます」の言葉が今も耳に残っております。時々、伊藤さんの研究室の窓の下を通ります。「遠山先生！」という声が聞こえてきそうです。

この手紙でお伝えしておきたいことが二つあります。一つは伊藤さんが中心になって作られた本学の施設「太陽エネルギーシステム研究開発センター」が順調にスタートしました。時代の最先端を行く研究所になるものと確信しております。もう一つは「名誉教授」の称号贈呈が教授会全員一致で決まったことです。業績紹介がありましたが、改めて教育者研究者としての伊藤さんのすばらしさを皆で再確認しました。

久しぶりの手紙で長くなってしまいました。また、折を見てお便りしたいと思います。

敬具

平成 20 年 4 月　桜の候

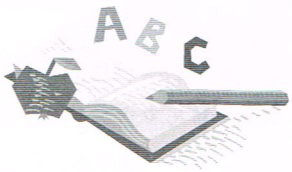
神奈川工科大学　遠山紘司

（ミネソタ便り）
＜ミネソタ在住の方、最近ミネソタを訪れた方にお話を伺ったり、お便りをいただいたりします。）

ミネソタ便り

ミネソタで日本人向けの短期英語学習＆ホームステイ・プログラム Yuko & Stu's "Special Homestay" をアメリカ人のご主人 Stuart さんと運営する角方優子さんからのミネソタ便りをインタビュー形式でご紹介します。
ホームページ　http://www.yukostu.com/index.html

Q.お二人の出会いとミネソタで教室を開くまでの経緯について教えてください。



A.私は日本で英語を学び、ほぼ 30 年間高校、塾、家庭教師、自宅での英語教室などで英語を教えてきました。また外国人のお世話や観光案内、通訳等のボランテイァ活動を通じて自分の英語を育ててきました。夫の Stuart は 20 代のときに 2 年間日本で過ごし、大の日本人ファンになり、その後仕事の休暇を利用して何十回となく日本を訪れ日本人の英語をサポートしてきました。

この宿はそんな二人が出会い、第二の人生を始めるにあたり、何か一緒に他の人をサポートできることはないかと考えて始めたものです。ミネアポリス＆セントポール空港から車で 15 分くらいの、イーガンというところで日本人のための英語の宿をやっています。日本で長らく英語を教えていましたが、作られたクラスから出て学ぶ英語の教室がやってみたくて、アメリカ人の夫と初めて 3 年になります。

Q.教室に来られている方はどんな人たちですか？
A.教室に来ている人たちは、私の日本での友人、生徒さんたち、またはそのお知り合いです。この活動は私たちが今までしてきたことの延長ですが、ビジネスというよりも趣味のようなライフワークです。2 人だけでやっているため宣伝もしていません。ビジネスとして大きくしようとも考えていません。受け入れる人数や期間にも限りがあり普通のホテルとも違います。自分たちの出来る範囲で、自分たちも楽しめればというのが理想です。

Q.ホームステイに来る生徒さん方にとっては、事前の予想の実際の体験の間のギャップ、発見、驚き、などがあるのではないですか。
A.違う言葉に違う顔の人々に囲まれて、全てが違った環境の中に自分を入れることは予想外のエネルギーが要るものです。皆さんそれを感じているようです。「なんか凄く疲れるんですよね。でもどうして疲れるのか分かりません。」と何人もの方がおっしゃっていました。

また、教室の中で教材を使って勉強することになれてきたからでしょうか。何かをやりながら英語を使うということがとても役に立つということの意味を理解するのが皆さんなかなか難しいように感じます。自然に言葉を使っているとき一番学んでいると思います。

日本で英会話の授業を取っている人たちでも、その 1 時間が終わればそれで英語は終わりですが、ここではそれが次から次へと続いて行きます。来ていただく方にはずいぶんなチャレンジだと思います。その中で楽しみが広がってくれればうれしいです。チャレンジの中にまた楽しみを見つけられればうれしいです。

Q.英語を教える立場として日本でやっていた時と違いを感じますか？
A.こちらに住んでまだ 5 年ですが、「アメリカに住めばそれだけで英語は自然に上達する」　ということが想像の中だけのことだったということも知ることが出来ました。日本での英語の基礎の勉強がどれだけ大切かということも目の当たりに見ました。言葉はどれだけやっても奥が深くてきりがないものですが、コミュニケーションの手段ということを考えれば、聞いていて相手を疲れさせない英語ということで、ゆっくりと、はっきりとした音で、プレインに話すのがとても好

ましいのではないかと思うようになっています。

Q.日本の義務、高等教育で学ぶ英語の基本で、よい点はどんなところでしょうか？
A.大人になってから英語を学ぶ場合、基本的な英語の知識は不可欠なものだと思います。日本の英語教育で学ぶ英語は実際には役に立たないというのを時々聞きますが、私達はそうは思っていません。口語的な表現をたくさん入れてネイティブのように話そうとするよりも、しっかりとした構文でブロークンでない英語を話す方が聞く方にとっては楽です。中学の教科書を理解して使えるように練習していればそれが出来ると思います。

Q.ミネソタについての好きな点、不満な点などありますか？
A.豊かな自然、親切な人々。ゆっくりとした生活のペースがいいですね。やや不満に思う点は、現地の人と知り合い以上の友達になるのは難しいということでしょうか。意外と中に入るのは難しい。そんなふうに感じています。

最近の情報としてジャズフェステイバルのことに触れてみたいと思います。皆さん、夏の初め、6 月の終わりごろからセントポールとミネアポリスのダウンタウンで行われるジャズのお祭りをご存知でしょうか。街をあげてダウンタウンの所々でステージが立ちます。ジャズファンなら昼から夜までたっぷりと楽しめます。

私は、シカゴのジャズのお祭りにも行きましたが、こちらの方が何だかこじんまりして趣があるように思います。音楽のレベルもなかなかだと思いますが、ステージの前でダンスをする人たち、曲に合わせて気持ちよく体を動かす人たち、これもお祭りになんともいえない魅力を加えています。

そんな地元の人に混じって、たそがれのダウンタウンで音楽に浸るのは最高です。入場料も無料です。コミュニティ活動を支えるために寄付で支えられているのもすばらしいことだと感じています。

（ミネソタの思い出）
＜当会会員やそのご友人にミネソタの思い出を綴ってもらいました。＞

ミネソタ大学院での留学生活について　　渡辺則子

【向こう見ずな留学生】
１９８０年８月１７日・・・この日から私のミネアポリスでの留学生活が始まりました。もうそれから四半世紀以上経ったのかと思うと、感慨深いものがあります。今回、ミネソタでの生活についての文章を書いてみませんかというありがたいご依頼を戴きましたので、ミネソタ学の大学院生（社会学専攻）として修士号を取るための約２年半について振り返ってみたいと思います。

私がミネソタ大学を留学先として選んだのには、あまり深い理由はありません。大学３年生の後半から、「英語で教育を受けたい、州立大学のほうが私立大学より授業料が安い、大都会は危ない、博士号だけでなく修士号も取れる大学がいい、外国人留学生に英語以外の語学力を求めない・・・」などの条件を満している大学院数校に願書を送り始め、合格通知をもらえたのが、ミネソタ大学ともう１つあり、ミネソタ大学のほうが学生数も多くキャンパスが広そうだからという単純な理由で選びました。冬の寒さのことも知らず、もちろん知人もおらず、若さと好奇心だけで決めました。今は海外旅行、いいえ国内旅行でもガイドブックを買って下調べをするのに、これから住む国の、街の様子をろくに調べもしないでよくもまあそんな無謀な状態で留学したものだと思います。(今更ながら留学を許してくれた上に費用も出してくれた両親に感謝しています。)

【自称優等生から劣等生へ】
大学の４年間、英会話クラブ（ＥＳＳ）に所属し、英語の勉強をし続けた私は、“英語ができるほうだ”という錯覚に陥っ

ていました。勿論ＴＯＥＦＬやＧＭＡＴなど留学に必要な試験を受けた時、うーん大変だろうなあとは思っていましたが、頑張ればなんとかなると恐ろしく楽観的な気持ちでいました。

そんなうぬぼれを一撃で木っ端みじんに打ち砕いたのが、最初の授業－しかも大学院でなく学部生の授業（慣れるためにと教授のアドバイスで学部生の授業も取っていました）でした。まるでロシア語の映画でもみているかと思うほど、なんにもわからないのです。よくジョークを理解できなくても一緒に仕方なく笑ったという話を聞きますが、それすらできないほど呆然となりました。授業が終わり、教室の外に出たときに、これから先どうやって授業を理解すればよいのかと目の前が真っ暗になりました。余裕がないと、かえって涙もでないのですね。泣きたいのに、ショックが大き過ぎて、涙もでません。

でも「意志あるところに道あり」でした！なんとかしなくてはと必死になり、よく質問する優秀そうなアメリカ人の学生の隣に座り、カーボン用紙とレポート用紙を渡してその人のノートを授業終了後直後にもらうことを思いつきました。日本の学生だと嫌がる人が多いと思いますが、アメリカ人の学生は“他人を助ける”という精神が強い人もいるようで、どのクラスでも気前よくノートのコピーをもらえ。また、その講義の先生に頼んで、テープレコーダーを持ち込ませてもらい講義を録音しました。ノートは、ポイントが書かれているのでその言葉を拾って教科書を読み直しました。テープは、今から思うと、気休め的な価値しかありませんでしたが、録音されているということで学生もより活発に発言してくれていたように思いました。（こういうところが、アメリカ人らしいですよね）

【慣れてきたころにまた挫折】

やっとすこし授業についていけたと思い始めたころに、中間試験がありました。ある日、教室に入って行くと、皆、横が広いＢ５版を少し大きくしたような薄いノートのようなものを持っています。

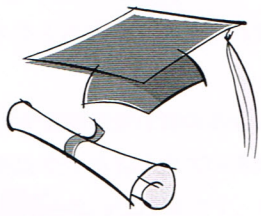
「それは、何なの？なんで皆持っているの？」「これは、試験の答案用紙だよ。これに答を書いて提出するんだよ。」・・・・劇画風に言えば、“ガーン！”という文字になるのでしょうか、頭の上に石が落ちて来ました。　答案用紙だなんて、日本の大学では、必ず問題用紙と一緒に配られていたじゃないの！それにこの間の数学の試験の時にはちゃんと解答用紙が配られたじゃないの！慌てている私に、ある学生が、「これあげるわ」と余分に持っていたらしいそのノートをくれました。ううう。。。捨てる神あれば拾う神ありってアメリカでも言えるんだと思いました。どうも文章題が出されるテストのときには、このノートを学生は自分で用意して持って行くのが、授業によっては求めらていて、ある意味“常識”だったようです。

【それでもなんと留学生活は進んだ】

その後も、アメリカ人のクラスメートだけでなく、同じく苦労している他の国からの留学生や、また英語がネイティブのように話せる日本人の留学生などに助けられながら、少しずつ慣れていきました。留学生活の後半には、クラスメートの家に集まって試験勉強をした時も彼らの議論の輪に入ることができるようになり、また授業中も時には発言もできるようになりました。ふっと今、Wilson Library の中にあった、大学院生のみが借りることができる小部屋（Cubicle）を思い出しました。　机と椅子しかない狭苦しい個室なのですが、ある日キャンパスの新聞 Minnesota Daily にここに勝手に何ヶ月か棲み付いていた人がいたという記事が載っていましたが、それも可能だなと思わせるくらい、静かで清潔な空間で、そこにこもって膨大な資料を図書館から借りてきて勉強しました。大学受験以来、はじめて必死で何時間も勉強しました。

【どんな山でも登れば頂上に到達する】

修士論文を２本書いて、最後の口頭試問で「おめでとう！これであなたには修士号が与えられますよ。」と３人の教授に言われて部屋を出たとき、嬉しい気持ちとほっとした気持ち、それに言葉では表せない達成感を感じました！本当に、本当



にうれしかったです、日本の大学を卒業した時とは比べ物にならないくらい。思わず、「万歳！」と声が出てしまいました。このときの感激は、今でも私の宝物です。

【とはいえ楽しいこともあった学生生活】
なんだか大変だった、苦労したと辛いことばかりのような留学生活をご紹介してしまいましたが、楽しいことも沢山ありました。

ミネソタの自然はとてもダイナミックなものでした。お盆のような平地なので開放感があります。初夏のライラックの淡い花の愛らしさは北国ならでしょう。夏に虹が二重にかかったときなど、子供のころに読んだ童話の世界です。冬も状況によっては生命の危機を感じるほどの厳しい環境になりますが、雪の結晶が全く溶けずに、あるブランドのマークの形のままダウンジャケットの上に降り注ぎます。夜、冷たい風が二重窓の外に吹き付けると、一瞬にして天才画家も及びもつかないような幻想的な模様を窓に描きます。春と秋は大変短いのですが、四季の移り変わりを肌で感じながら、広いキャンパスを歩き回っていました。日本とは比べ物にならないような大きなリスに苺を投げてやったり、冬に備えてまるでつぐみのように太った雀の愛らしい姿も、心を和ませてくれました。

ある夏の夕暮れ、湖のほとりでバーベキューをしようと日本人の友人達と出かけました。日本とは違い、人っ子ひとりいません、完全に貸切状態です。（これには理由がありました）陽が落ちて、さあそろそろ食べ始めようかと思ったら、蚊の大群に教われました。食べ物を放り投げて、慌てて車の中に非難しました。夕方になると蚊が現われるのです。だからそれを知っている現地の人はだれもそんな時間に湖にやってこないのでした。ミネアポリスの生活に慣れてていない日本人留学生ならではの、おかしくてそして貴重な経験です。

【いつかは訪れなくては】
残念ながら、帰国後一度もミネアポリスを訪ねていません。空港に着陸する飛行機の窓から緑と湖に囲まれた街を見下ろした時、なつかしさできっと泣いてしまうと思います。いまでもあの留学生生活を思い出すと胸が一杯になります。ミネアポリスでの生活は、大切な大切な宝物です。

（トピックス）
＜ミネソタに関する話題をお届けします。＞

ミネソタ・スポーツ事情

ミネソタ大学

アメリカンフットボールとバスケットボールの二大人気競技でヘッドコーチを交代。1 年目の成績は対照的ですが、ともに有力な選手をリクルートして来期は楽しみです。
大学のスポーツ情報サイト（英語）
http://www.gophersports.com/Sports/roster.asp?sport_id=mbasket

アメリカンフットボール　2007-2008 シーズンの成績　1 勝 11 敗（前年 6 勝 7 敗）

プロフットボールの現役コーチをヘッドコーチに迎えた 2007 年のシーズンでしたが、わずか 1 勝の厳しいシーズンでした。しかし今年の新入生たちは全米の大学でもトップクラスの評価を得ています。V 字回復なるか！

ミネソタ大学新フットボールスタジアム　2009 年オープン

http://www.startribune.com/video/15375881.html

バスケットボール　2007-2008 シーズンの成績　20 勝 14 敗（前年 9 勝 22 敗）

学生バスケットボールの名門ケンタッキー大学を長く指導してきたヘッドコーチをスカウトしました。就任時から期待が高まりました。そして初年度から見事な建て直しを見せました。こちらも今年入学する選手は非常に有望視されており、いずれビック 10 のタイトルも狙えると期待が高まっています。

アイスホッケー　　2007-2008 シーズンの成績　19 勝 17 敗 9 分（前年 31 勝 10 敗 3 分）

2007-2008 のシーズンは、前半もたつきましたが、終盤には調子を上げて終わりました。個人の話で恐縮ですが、留学時にＭＢＡクラスの地元の人たちと一緒に、イントラリーグの試合に参加しました。大学チームの使う 9 千人収容のマリウシアリーナでスケートができたのは良い経験。地元の人は簡単な防具だけでのプレーでビックリでした。

プロ・スポーツ

ミネソタはボストンへの選手供給地！？と揶揄されています。ＭＬＢレッドソックスの主砲デイビッド･オルティーズ、ＮＢＡセルティックスのケビン・ガーネット、ＮＦＬペイトリオッツのランディ・モス。ミネソタの放出した選手の大活躍で、ボストンのチームが優勝に向けて大躍進！の例が続いている結果です。それぞれの街のカルチャーや経済力を反映しているのかもしれません。

私が留学していた 90 年代後半は､チームが自治体に新しいスタジアムを建てろ！さもないと出て行くぞ！という交渉が続いていました。他州の自治体はこれに応じるか、チームを失う中で、ミネソタの人々は税金投入でのスタジアム建設を拒絶し続けました。ミネソタの人は賢明であるなと感心したものです。それでも幸運にもチームは存続。時を経て野球では新しいスタジアム建設が認められました。新スタジアムの開業で街の景色や人の流れも大きく変わることでしょう。

ミネソタ・ツインズ　　2007 シーズンの成績　79 勝 83 敗（前年 96 勝 66 敗）

昨年は久しぶりの負け越しのシーズンでした。新スタジアムが 2010 年ダウンタウンにオープンします。それに向けて有望若手主力選手とは長期契約。一方でフリーエージェントとトレードで有力選手の放出もありました。若手主体、しかし輝かしい才能に恵まれたメンバーで今年からの躍進がなるか。

http://minnesota.twins.mlb.com/index.jsp?c_id=min

セントポール・セインツ

http://saintsbaseball.com/

お馴染みのプロ野球の独立リーグのチームです。

ミネソタ・ティンバーウルブス　　2007-2008 シーズンの成績　22 勝 60 敗（前年 32 勝 50 敗）

ケビン・ガーネットを放出する大トレードで一気に若返りを敢行。今シーズンは予想通りに下位低迷。ドラフトで有力選手を引き当てての浮上なるか。

http://www.nba.com/timberwolves/index.html

ミネソタ・リンクス

http://www.wnba.com/lynx/

女子のプロバスケットボールチームです。

ミネソタ・バイキングス　　2007-2008 シーズンの成績　8 勝 8 敗（前年 6 勝 10 敗）

ダウンタウンのメトロドームの建て替え計画がありますが、実現するかどうか。昨年は二年目のヘッドコーチのもとシーズン 8 勝 8 敗、惜しくもプレーオフを逃しました。ドラフト 1 位で入団の選手が新人王を獲得。もう一段のレベルアップができるかどうか。

http://www.vikings.com/

ミネソタ・ワイルド　　2007-2008 シーズンの成績　44 勝 28 敗 10 分（前年 48 勝 26 敗 8 分）

4 大メジャーの中で唯一、セントポールに本拠地を置いています。新設チームを招致した当時の市長は、その功績も評価されて現在は上院議員になっています。チームも好調、カンファレンス 1 位でプレーオフに進出しましたが、残念ながら優勝はなりませんでした。

http://wild.nhl.com/

ミネソタ・サンダー

http://www.mnthunder.com/

プロサッカーチームです。

ミネアポリス市日本語 HP

http://japanese.minneapolis.org/index.html

ミネソタと日本の姉妹都市関係について

日本とミネソタ州の間の姉妹都市関係と言えば、長崎とセントポールが有名ですが、ほかにもたくさんありますよ。以下に簡単にご紹介します（紹介文は各市のホームページからの引用です）。

1. ミネアポリスと大阪府茨木市

1980 年、ミネアポリス市と大阪府茨木市の間に姉妹都市提携が交わされました。この二都市を結び付けたのは、当時ミネアポリスのインターナショナル・マルチフード社の事業の一つであった、ミスター・ドーナッツ茨木店のオープンがきっかけでした。提携以来、数々の市民交流とともに、両市の市長、市議会議員による相互公式訪問などが続いてきました。青少年サッカーや野球、テニスといったスポーツ交流、学生のホームステイ、キャンプ交流、音楽や伝統文化の交換といった様々な活動を通して、両市の友好が深められ、2005 年には姉妹提携 25 周年を迎えました。

2. セントポールと長崎市

ニューヨークの日本国連協会代表が、原爆被災から復興し平和 都市への道を歩んでいた長崎市とセントポール市の提携を斡旋。 その後国連事務局が両市に勧誘状を出しました。日米初の姉妹都市提携となりました。（1955 年 12 月 5 日に長崎市議会全員協議会で承認、7 日に セントポール市議会で決議）

3. ダルースと千葉県いすみ市

いすみ市大原地域の寄瀬地区にあった長栄寺（現在は廃寺）に１６８６年製作の梵鐘がありました。太平洋戦争中に軍用物資製造用原料として供出されましたが、使用されないうちに終戦を迎え、１９４６年に米軍によって戦利品としてアメリカ合衆国に渡りミネソタ州ダルース市の市長室に飾られていました。１９５１年、千葉大学園芸学部長の武田憲治氏がアメリカ合衆国視察中にダルース市長と会談した際、この鐘の由来を聞きました。その後の調査で長栄寺の梵鐘であることが判明したため、返還について陳情をしたところ、１９５４年再び太平洋を渡り返還されました。（梵鐘は当時の土屋幸正大原町長により「日米親善平和の鐘」と命名され、現在は大原公園に保存されています。）この「平和の鐘」が縁となり、旧大原町とダルース市との間で姉妹都市を提携しました。また、１９９１年にはダルース市へ「平和の鐘」のレプリカを寄贈しました。

4. レッドウィングと愛媛県伊方町

1992 年 10 月全国原子力発電所所在市町村協議会主催の視察団のメンバーとして、町長、議長が渡米した際、四国電力と原子力情報交換に関する覚書を締結している NSP 社（ノーザンステーツ電力）のプレイリー・アイランド原子力発電所を訪問しました。この原子力発電所は、レッドウィング市に立地しています。

レッドウィング市は、アメリカ北部に位置し、同国の中でも歴史ある町で、風光明媚で非常に平和な地方都市であり、国際交流をするのに最適な町であると伊方町長は感じました。そこで四国電力を通じ、レッドウィング市に打診したところ、同市は、既にノルウェー、中国と姉妹都市契約を締結して友好親善に努めており、もう 1 ヵ所希望していました。1995 年 5 月に、国際交流推進組織となる伊方町国際交流協会を発足し、両都市の住民の相互理解と友情を促進し、相互互恵の原則のもとで経済、教育、文化、科学及び技術に関する交流を行い、両都市の繁栄を促すことを目的とした姉妹都市提携の準備を進めました。そして 1995 年 8 月に、町長はじめ 9 名の調印団を編成し、レッドウィング市において調印を行い、姉妹縁組が始まりました。併せて、海外派遣団 10 名を初めて派遣し、中学生のホームステイを実施した。現在、中学生のホームステイを中心に、人物・文化といった交流がすすめられています。

5. セントクラウドと秋田市

平成元年（1989 年）５月にセントクラウド市と旧雄和町（秋田市と合併）が姉妹都市関係宣言書に調印しました。平成５年（1993 年）６月にはセントクラウド市と旧雄和町が姉妹都市提携に調印。平成 16 年（2004 年）７月 秋田市及び河辺郡河辺町および同郡雄和町の配置分合に関する件ほか関連議案の議決により、旧雄和町とセントクラウド市との姉妹都市関係を市町合併後の秋田市が引き継ぐこととなりました。平成 18 年（2006 年）６月 佐竹敬久秋田市長、赤坂光一秋田市議会議長をはじめとする本市代表団がセントクラウド市を訪れ、姉妹都市提携書を取り交わしました。

6. ケンブリッジ市・ブラハム市と和歌山県湯浅町

両市は、アメリカ中西部にあるミネソタ州の大都市ミネアポリスの北約 80km に位置し、緯度は日本の最北端である北海道稚内市とほぼ同じです。冬の最低気温はマイナス 20 度にもなり、4 月までは雪がよく降る。人口はケンブリッジ市が約 5500 人、ブラハム市が約 1500 人で牧草地や畑に囲まれた静かな地域である。州都セントポールやミネアポリスのベッドタウンとして近年発展しつつあります。

7. ウィノナと宮城県美里町

町の文化、行政、教育農業、産業など国際的な視点から考え、気がねなく交流できる町を調査、視察、検討し,英語圏で将来希望が持てる先進的な町などを検討した結果、米国ミネソタ州のウィノナ市と決定、ウィノナ市へは平成 11 年から平成 18 年まで中学生 91 人、高校生３６人、同行者（姉妹都市締結時を含む）延 106 人の交流を行う。平成 13 年 10 月小牛田町とアメリカミネソタ州ウイノナ市と姉妹都市締結、平成 15 年 4 月ウイノナ市から初の親善大使 25 人（中学生 15 人、同行者 10 人）が来ており、その後毎年、平成 16 年 4 月 31 人、平成 17 年 30 人、平成 18 年 39 人と多くの方が来ておりま

す。

8. アノーカと福島県白河市

旧大信村（現白河市）は、アノーカが文化、自然、教育環境の面で優れた町であるため 98 年から村の中学生のホームステイを派遣してきたが、交流の相互化を図るため姉妹都市提携することとしました。

9. ブルーミントンと大阪府和泉市

和泉市とブルーミントン市は、大都市にも空港にも近く、人口や面積が同規模であるなど類似した立地条件を基礎に、相互発展を期して 1993 年 11 月 24 日に姉妹都市提携を調印。
教育・文化等各分野で市民・行政レベルの交流が行われており、高校生・大学生の学生の相互派遣も行っています。

＊ミネソタ州と秋田県

交流の開始は平成元年。この年、知事を団長とする県友好交流団がミネソタ州を訪問、翌年にミネソタ州立大学秋田校が開校し、友好交流が開始されました。ミネソタ州立大学秋田校の開校後は、２１の翼交流事業（Ｈ４～Ｈ８）などの青少年交流や産業・経済交流などが行われています。平成１５年８月には、知事をはじめとする交流訪問団がミネソタ州を訪問し、今後の県州間交流について話し合いが行われ、平成１６年度からは学術、医療、農業、商工業など広範な分野での県州間交流が開始されています。

＊ローズヴィルと群馬県新町

新町と高崎市の合併により姉妹都市関係は消滅したようです。

（編集後記）

- ミネソタ通信８号をお届けします。前号から４年ぶりです。２年ごとのサイクルを守れなかったことをお詫びいたします。
- 今回は新しい役員体制になって初の通信発行です。編集に新しいメンバーを迎えて、今までとはひと味違ったものとなったと自負しておりますが、出来はいかがでしょうか。「ミネソタ便り」、「トピックス」は新鋭・深井浩史氏の力作です。
- 次号は 2010 年の発行となりますが、寄稿やアイディアはいつでも大歓迎ですので、nihonmn2002@yahoo.co.jp までお願いします。
- またホームページ http://www.geocities.jp/nihonmn2002/ の充実も行っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（山口）